

SHOW-HHEYシネマール4

ウェディング・ベルを鳴らせ！

2007年・セルビア共和国、フランス映画
配給/デスペラード、日活・127分

2009(平成21)年4月9日鑑賞

GAGA試写室

Data

監督・共同脚本・製作：エミール・クストリツァ

出演：ウロシュ・ミロヴァノヴィッチ / マリヤ・ベトロニエヴィッチ / アレクサンダル・ベルチェック / ミキ・マノイロヴィッチ / リリヤナ・ブラゴイエヴィッチ / イワン・マクシモヴィッチ / コサンカ・ジエーキッチ / ストリボル・クストリツァ / ヴラダン・ミロイエヴィッチ

👁️👁️ みどころ

世界は広い。こんな楽しい寓話をつくり出す、旧ユーゴスラビア生まれの大監督がいたとは！花嫁を探せ！そんな約束を果たすため、少年はどんな冒険旅行を？個性豊かな登場人物たち、何とも面白い発明品の数々、そして波瀾万丈、奇想天外、ハチャメチャなストーリー展開。そのすべてに、きっとあなたは満足！さあ、どんな結末の中、ウェディング・ベルが鳴るのだろうか？

* * * * *

ここにもすごい監督が

私は、ベルギー・フランス・イタリア合作の『ロルナの祈り』(08年)ではベルギー生まれのジャン＝ピエールとリュック・ダルデンヌ兄弟というすごい監督を、チェコ・スロヴァキア合作映画の『英国王 給仕人に乾杯!』(07年)ではチェコスロヴァキアのプラハ生まれのイジー・メンツェルというすごい監督をはじめて知った。また、イスラエル・フランス・ドイツ合作映画の『シリアの花嫁』(04年)ではエルサレム生まれのエラン・リクリスというすごい監督を、イラン・フランス合作映画の『子供の情景』(07年)ではアフガニスタン生まれの19歳のアナ・マフマルバフというすごい監督をはじめて知った。

そして、本作ではじめて知ったのが、1954年に旧ユーゴスラビアで生まれたというエミール・クストリツァというすごい監督。彼は『パパは、出張中!』(85年)、『アンダーグラウンド』(95年)などの作品を世に送り出し、二度のカンヌ国際映画祭パルムドールをはじめとする映画賞を席卷してきた大監督とのことだ。

奇想天外なおとぎ話の、はじまり、はじまり

映画の冒頭に登場するのは、おじいさんのジヴォイン・マルコヴィッチ（アレクサンダル・ベルチェック）が、孫のツアーネ（ウロシュ・ミロヴァノヴィッチ）と牛のツヴェトカと3人（？）で暮らしている不思議な家。ジヴォインは発明マニアらしい。今、家の中からニョキニョキと出てきた潜望鏡（？）で覗いているのは、都会から車でやってきた役人（イワン・マクシモヴィッチ）の様子。何か面白いことが起こりそうだと思いながら観ていると、この車はジヴォインが仕掛けた穴の中にドーンと突っ込んでいったから大変。こりゃ一体ナニ？面白い仕掛けによってたたき起こされたツアーネはこんな有り様を楽しそうに見物していたが、ツアーネも発明家の血を引いているようで、この映画には彼の発明したさまざまな面白い道具が登場してくるからそれに注目！

ジヴォインとツアーネは、ジヴォインに恋焦がれて（？）都会から引っ越してきた隣に住む女教師のボサ（リリヤナ・ブラゴイエヴィッチ）らと共にそんな農村で楽しく暮らしていたが、役人の命令によって生徒1人、先生1人の学校は廃校とされることに。そんな状況下、死期を悟り、「ワシが死んだら、あの子は・・・」と心配したジヴォインは、ある日ツアーネに対して「町へ行って牛を売り、次の3つのことを約束しろ」と大胆な提案（命令？）を。3つの約束とは 牛のツヴェトカを売り、その金で聖ニコラスのイコンを買うこと。余ったお金で、なんでも好きなお土産を買ってくること。そして 花嫁をみつめることの3つだ。

さあ、こんな奇妙なプロローグから始まる波瀾万丈、奇想天外、そしてハチャメチャなおとぎ話（＝ツアーネの冒険旅行）は、邦題どおり無事「ウェディング・ベルを鳴らす」ことになるのだろうか？

一目ボレした美女の危機とは？

本作は、空飛ぶ怪人などの奇妙な人物たち、催眠うずまき、まんまるパンなどの面白い発明品の数々が登場し、さらに牛、猪、七面鳥などの動物が要所要所に登場しながら展開していく波瀾万丈、奇想天外、ハチャメチャな物語だが、基本ストーリーは、ツアーネがジヴォインとの間に交わした3つの約束を達成していくというシンプルなもの。そして、その最大のテーマは当然、花嫁をみつめることだ。

ツアーネが都会に出た途端に一目ボレする美女ヤスナ（マリヤ・ペトロニエヴィッチ）と出会えたのは意外だったし、ツアーネの自己紹介やプロポーズがスムーズに進んでいく

のも意外。しかしヤスナの母親（コサンカ・ジェーキッチ）がマフィアのボスであるバヨ（ミキ・マノイロヴィッチ）から借金しているうえ、母親はバヨの経営する売春宿で娼婦として働いているらしいから大変。また、そのためヤスナは1時間80ユーロの値段で娼婦とされ、セルビア初の貿易センタービル建設のためバヨが接待してる市の役人への貢ぎ物にされようとしていたから大変。ヤスナに迫ったそんな危機に対して、ツアーネはどんな救出作戦を？それに協力するのが、ジヴォインのかつての親友であるトリフンの孫であるトプズ（ストリボル・クストリツァ）とルーニョ（ヴラダン・ミロイエヴィッチ）たちだが、彼らは一体どんな能力を發揮するの？

さあ、そんなメチャ楽しい冒険物語をあなたの目でじっくりと。

ウェディング・ベルを鳴らすのは？

ヤスナに迫る危機を勇気と知恵で救出するツアーネ。そんな波瀾万丈の大展開の中、ツアーネとヤスナとの間に愛が芽生え始めたのは当然だ。そうなれば、ツアーネのプロポーズをヤスナが受け入れるのは時間の問題・・・？

他方、村でツアーネの帰りを待つジヴォインとボサの暮らしは？ジヴォインの大仕事の1つはウェディング・ベルの製造と塔の建設。発明家のツアーネにとってそれは簡単なように思えたが、意外に苦労したのがベルの吊り上げ作業。それに協力したのが隣人の女教師ボサだが、もともとボサはジヴォインにホレて村に引っ越したのだから、そんな共同作業の中で2人の恋に火がついてもおかしくはないはず。やっとヤスナを連れて村に帰ってきたツアーネは、鐘の音を聞いて「こりゃ、ひょっとしておじいさんの葬式？」と焦ったが、さて真相は？死期を悟ってツアーネを都会に送り出したはずのジヴォインだったが、この調子では100歳まで長生きできるのでは・・・？

2009（平成21）年4月13日記

弁護士 坂和章平
THE MYSTERY
LAW DE
SHOW



「ウェディング・ベルを鳴らせ！」

(今日からシネ・リーブル梅田で公開)



だから、その間合いの妙をじっくりと。

他方、奇想天外なおとぎ話の行方は中盤に至ってもなお不透明。TはJを無事救出できるの？

Jは求婚をOKするの？そして二人は無事祖父の元へ帰還できるの？

そんな波瀾万丈の後半の展開はあなた自身の目で、冒頭に繰り出される、

悪徳役人撃退のための祖父の発明品の数々に注目！また爆笑の中で登場する、発明家の血を承継

婚活中の諸君、必見！

ピゼー作曲の歌劇『セルビアの理髪師』は有名だが、サラエボ生まれの大監督エミール・クストリツァのこんなトンデモない映画を知ってる？

映画冒頭にみるセルビアの山奥はのどかだが、そこにも変革の波が？田舎暮らしの祖父が寿命を覚り、孫のツァーネ

(T)を嫁探しに送り出す物語から始まるドタバ

夕劇は最高！

美少女ヤスナ(J)との出会いと一目惚れ、そして即求婚の早業は、婚活に悩む今ドキの日本の若者のお手本にも？Jへの接近を目指すTの意外な発見は、Jの母親が市当局と結託したマフィアのボスの婚館にいたこと。

政治家癒着の構造はセルビアでも同じらしい。借金のカタでJもあわや婿

婿？ こりゃ大変！

友の契りを交わした一人の怪人の力を借りたTの知恵を絞ったJ救出作戦の展開とその成否が中盤の見モノだ。時折登場するのがサーカスから飛び出した奇妙な風体の空飛ぶ怪人。また、いかにも場違いな牛、猪、七面鳥などの動物だが、さてその意味は？これこそエミール監督の真骨頂

見たことあるはずだ。

したTの催眠うずまきの威力にも注目！そして隣人の女教師と共に祖父が仲良く暮らす田舎の風景に注目！今、村中に響きわたる鐘の音は葬儀のため？ 婚礼のため？

爆笑を誘うハチャメチャな銃撃戦の後、私たちが見る最高の場面とは？日本では既に失われた幸せモデルを、そこに発

見ることができるはずだ。